



国立大学法人 帯広畜産大学の取り組み

平成25年5月

寄附講座「バレイショ遺伝資源開発学講座」などを開設
おびひろ動物園大学(OZU)の実施
とかち夢パン工房が完成(製パン実験施設)
福島県の除染対策への復興支援
HACCP準拠の「食品加工実習施設」が完成

獣医学教育4大学連携事業を推進
JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣
口蹄疫発生を想定した実習を実施
第2回ふれあい畜大フェスティバルを開催
トーストアートで新入生を歓迎



寄附講座「バレイショ 遺伝資源開発学講座」などを開設

帯広畜産大学と包括連携協定を締結しているカルビー(株)のほかキューピー(株)、ケンコーマヨネーズ(株)、北海道馬鈴しょ協議会とカルビー元会長・社長の松尾雅彦氏の5者の寄附により、平成25年4月から5年間、寄附講座「バレイショ 遺伝資源開発学講座」を開設しました。4月19日には、関係者が集まり開設記念式が行われました。今後、この講座で安全・安心なバレイショの新品種開発等の研究が進められます。また、平成24年11月から5年間、医療機器製造・販売メーカーの(株)白寿生科学研究所と生命が本来持つ生体機能を平衡に保つ働きについて、総合的に研究し、予防医学につなげるための「生命平衡科学講座(白寿)」の寄附講座を開設しました。



開設記念式に出席した寄附関係者と長澤学長(左から4番目)

とかち夢パン工房が完成(製パン実験施設)

平成24年12月14日、敷島製パン(株)との包括連携協定に基づく「とかち夢パン工房」が完成し、報道関係者に除幕式、施設見学会が行われました。この施設は、本学施設の内部を改修し、講義スペース、ミキサー、オーブン、発酵装置などを設置し、一部の装置は、敷島製パン(株)から貸与を受け、製パンラインを完成しました。また、より高品質のパン製造のための科学的な検証を行う設備も整え、今後は、この施設を利用して共同研究、学部学生の小麦の生産から製品に至る一連の過程を学ぶ実務実習施設として、大学院学生による専門研究等に利用されます。



(左から)敷島製パン株式会社 根本開発本部長と長澤学長

JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣

本学では、平成24年度から、在学生・卒業生をJICA青年海外協力隊の長期隊員・短期隊員として、南米パラグアイ国に派遣する「帯広-JICA協力隊連携事業」を実施しています。本事業は、派遣期間約2年の長期隊員と派遣期間約2ヶ月の短期隊員の組み合わせで、パラグアイ国における家畜飼養管理技術、家畜の健康・衛生管理技術向上のための支援を行い、同国の酪農の発展を図るとともに、獣医・農畜産分野における国際協力経験機会を通じたグローバル人材の育成を行うことを目的としています。平成24年度には、長期・短期それぞれ第1期隊員として、平成24年6月に長期隊員1名、平成25年1月に長期隊員3名、2月に短期隊員3名の在学生・卒業生がパラグアイ国に赴任し、活躍しています。



平成25年2月第1回短期派遣隊員
左から、阿部知紗、岩澤裕介、清山咲希子

福島県の除染対策への復興支援

本学は、学内に「東日本災害復興支援プロジェクト」を組織して、原発事故で放射能汚染された福島県の農業分野における放射能汚染除去対策のため、平成24年10月25日から27日まで、学長をはじめとする本学教職員7名を現地に派遣して、研究支援のための視察を行いました。また、平成25年1月には、福島県飯館村村長をはじめ5名を招き、10日に帯広畜産大学大講義室で学生を対象として「畜産研究からの現場報告会」、翌11日には、一般市民を対象として「とかちプラザ」(帯広駅前)でシンポジウムを開催しました。今後も復興支援の活動を継続的に実施していきます。



現地視察をするプロジェクトチーム

口蹄疫発生を想定した実習を実施

平成24年6月28日、畜産フィールド科学センター内の牛舎で口蹄疫が発生したことを想定した、初の授業が実施されました。この授業には、獣医学課程5年生36人が参加し、学生たちは防護服、手袋、長靴にはガムテープを巻き、完全防備の重装備で、真剣に取り組んでいました。この授業には、宮崎での口蹄疫発生時現地に行った十勝家畜保健衛生所の専門家9人の助言を受けながら進められました。また、本学家畜防疫研究室(畜産フィールド科学センター内)では、道内の家畜保健衛生所の職員等を対象に海外悪性伝染病講習会を開催し、我が国における口蹄疫、鳥インフルエンザなどの悪性伝染病の侵入防止のため、日常的に活動をしています。



真剣に実習をする学生たち

おびひろ動物園大学(OZU)の実施

帯広畜産大学とおびひろ動物園は、相互に協力して動物に関する教育・研究の充実を目指すとともに、魅力ある動物園としての活性化を図ることを目的として、平成22年に連携協定を締結しました。同協定のもと、これまでインターンシップの実施やキリンの妊娠診断、共同イベントの実施、動物園における学生ボランティア活動などを行ってきました。平成25年度からは、おびひろ動物園開園50周年記念を契機に、これまでの連携をさらに強化し、「おびひろ動物園大学(OZU)」と命名した学生参加による魅力的な動物園づくり事業を実施していきます。平成25年度は、11事業の実施を予定しており、4月27日には、おびひろ動物園開園の日に合わせて、園内に「帯広畜産大学サテライト」を開設しました。



(左から)高橋動物園長、長澤学長、米沢帯広市長、八鍬教育長

HACCP準拠の「食品加工実習施設」が完成

食品衛生管理の国際基準(HACCP)準拠の食品加工実習施設(旧肉畜処理施設)が完成しました。この施設は、食肉加工のほか乳製品加工の実習にも幅広く利用ができ、より厳格な衛生管理により食品加工品の商品化も可能となります。また、動物の代謝などを研究する「ズートロン実験室」を「農畜産資源循環研究棟」として改修し、この研究棟の周りには農畜産プラントや農機具庫なども整備し、これらの施設を活用して、循環型農業の実証試験などの研究が行われます。



(左から)長澤学長、小田理事

第2回畜大ふれあいフェスティバルを開催

平成24年12月22日、「とかちプラザ」(帯広駅前)において、第2回畜大ふれあいフェスティバルを帯広市教育委員会、釧路工業高等専門学校との共催で開催しました。長澤秀行学長から、「帯広畜産大学の東日本災害復興支援プロジェクト」と題して、10月に福島で実施した研究調査の講演を行った後、十勝管内の高校理科クラブの研究成果発表が行われました。展示・体験ブースでは、動物の骨格標本の展示や、畜大牛乳、牛乳とうふの試食など、本学らしい展示のほか、釧路工業高等専門学校による様々なロボットの展示もあり、来場者の関心を集めていました。また、展示会場では畜大オリジナルグッズがもらえるスタンプラリーや進学相談会にも多くの市民が訪れていました。



身近な物の放射線量測定体験授業

獣医学教育4大学連携事業を推進

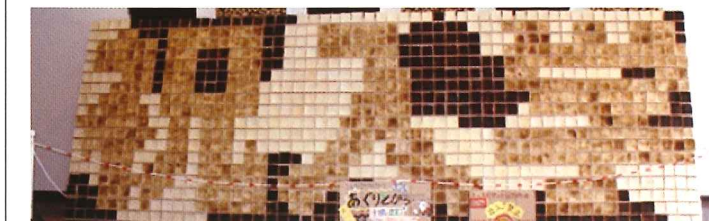
帯広畜産大学・北海道大学と山口大学・鹿児島大学の獣医学教育課程の一層の高度化に取り組む事業、「国立獣医系4大学群による欧米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構築」を平成24年度から開始しました。この事業は、北日本と南日本の地域特性を活かした教育プログラムの開発と我が国獣医学教育の水準向上と国際的・社会的にリーダーとして活躍する獣医師の養成を行うなど、日本の獣医学教育改革を先導することを目指しています。本学では、この事業を推進するため「国際認証推進室」を設置し、認証情報の調査研究を行うとともに、産業動物臨床施設、検査センター等の整備により、教育環境の高度化に取り組みます。



推進室会議の様

トーストアートで新入生を歓迎

平成25年4月7日、本学農業サークル「あぐりとかち」が「かしわプラザ」(大学キャンパス内)に食パンに焦げ目を付け、「祝入学」と書かれたトーストアートで、新入生を歓迎しました。このトーストアートは、十勝の小麦をPRするため、7月に開催されるモザイク画のギネス世界記録を目指す「世界トーストアートin十勝」のテストイベントとして行われ、「あぐりとかち」とデザイナー、パン職人、農家らの協力を得て、食パン972枚を並べ、縦1.8m、横5.4mのモザイク画を約2時間かけて完成させました。使用した食パンは、展示後家畜の飼料として活用されました。



完成したトーストアート





学長からのメッセージ

知の創造と実践によって
実学の学風を発展させ、
「食を支え、暮らしを守る」
人材の育成を通じて、
地域および国際社会へ貢献する。

(第二期中期目標計画に掲げた本学のミッション)

帯広畜産大学長 長澤 秀行

本学は、生命、食料、環境をテーマに、農学、畜産科学、獣医学に関する教育研究を推進する、我が国唯一の国立農学系単科大学です。

「農と食」を支える農学、畜産科学、獣医学は、いずれも実学を重視した学術分野であり、知の創造と実践は、人々の生活に根ざしたものでなければなりません。自然を相手に営む産業である「農業」と、私たちの健康の源となる「食料」に係る諸課題は、必然的に、現代社会が抱えている地球規模課題である気候変動、食料安全保障、環境問題、エネルギー問題、感染症などと密接に関連します。従って、これらの地球規模課題の解決には、農業を支える農学分野の学術貢献が必須となります。また、以前には愛玩動物やペットと呼ばれていた動物たちが、今では私たちの生活に密接に係わる伴侶動物、あるいはコンパニオンアニマルと呼ばれるようになり、心の健康を保つ重要な仲間と認識されるようになりました。従って、本学のミッションである「食を支え、暮らしを守る」人材はグローバル人材であり、その育成は国立大学法人として重要な責務です。

グローバル化した現代社会の流れは速く、既成の概念、常識、価値観では対応できない事柄が多く存在します。今、新たな価値観の創出と社会システムの変革が求められており、そのためには、社会の変化に対応しうる、広い視野を持った、科学的根拠に基づく学術貢献が重要であり、このことを理解し実行できる「グローバル人材」が必要です。

本学は、以下の4つのビジョンに基づきグローバル人材の育成を推進します。

1. 恵まれた自然環境を活かしつつ、潤いと活気があり、豊かな人間性を醸成できるような「学びあいのコミュニティ」を創出する。
2. 獣医・農畜産融合の視点から、幅広い見識と国際性を有し、実践力のある人材の育成を目指す。
3. 生命・食料・環境の分野に関し、地球規模課題の解決に向けて、トップレベルの学術研究拠点となることを目指す。
4. 創造的、学際的な実学研究の成果を社会に還元して、地域および国際社会の持続的発展に貢献する。

帯広畜産大学の概要

大学の沿革

昭和16年 4月	帯広高等獣医学校
昭和24年 5月	帯広畜産大学
平成16年 4月	国立大学法人帯広畜産大学
	畜産学部(共同獣医学課程, 畜産科学課程)
	大学院畜産学研究科(修士課程, 博士前期・後期課程)

役員・教職員数

※平成25年5月1日現在、()は非常勤で内数

役員	6	(3)
教員	127	
事務・技術等職員	95	
合計	228	(3)

学生数

※平成25年5月1日現在

	男	女	計
学部	585	585	1,170
大学院 (修士・博士前期)	51	45	96
(博士後期)	19	9	28
別科	22	11	33
合計	677	650	1,327

留学生数

※平成25年5月1日現在

	男	女	計
20カ国から	43	27	70

帯広畜産大学広報室

〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地 TEL.(0155)49-5228 / FAX.(0155)49-5229

mail kouhou@obihiro.ac.jp